

# 定例公安委員会開催概要

## 1 開催日

令和4(2022)年4月20日

## 2 開催内容

次の議題について、警察本部から説明・報告がなされ、決裁等が行われた。

### ■全体会議

#### 【公安委員会から】

冒頭、委員から、

「本日、警察学校の入校式が行われるので、若手警察官の活躍について話させていただく。先週、NHK盛岡放送局のニュースで、盛岡西警察署の交番で勤務する佐々木巡查部長が、東日本大震災が発生した際に大船渡警察署高田交番で震災対応に当たった当時のことが取り上げられていた。佐々木さんは、震災発生時に上司と交通整理に当たっていたが、途中で、上司が交番に戻ることになり、一人で交通整理をしているときに津波が襲い、周囲の方々を高田第一中学校に避難誘導している。私が感銘を受けたのは避難誘導した後のことである。中学校には、たまたまNHK放送局が取材に来ており、3月11日夜の様子が撮影されていた。薄暗い教室の中で、消防の方、地域の方等、年上の方々を前にして、当時21歳の佐々木さんが中心になって、いろいろなことを協議している様子であった。公安委員になってから、多くの方から震災当時に苦労された話を聞いたり、文章で書かれたものを読んだりしたが、映像で見るとすごく力があつた。21歳の青年警察官が、警察官になってからの期間が短い中で、警察官として培ってきた様々な知識や経験を余すところなく活用して対応している姿というのは涙ぐましいというか、よく頑張っていたなという思いで見た。先日も話したとおり、県警察では、既に3分の1近くの警察官が震災後に警察官を拝命している状況にある。今後も、災害等が発生した際に、1人で頑張らなければならない場面があり得るが、非常時に何を考え、どのように行動したのかというのは、県警察にとっては貴重な財産だと思う。中には、失敗もあったかもしれないが、それを含めて、自分達はどうか考え、どのように行動したのかを、是非、伝承していただきたいと思う。」旨の発言があった。

#### 【生活安全部議題】

##### ○ 令和4年度少年サポート隊の委嘱について

警察本部から、「少年サポート隊は、非行少年、被害少年及びその他の問題を抱えた少年の立ち直りを図ることを目的として結成された大学生ボランティアで、1年間を任期として、警察本部長が委嘱している。昨年度は、対象の少年に対して、農業体験、スポーツ交流等合計24回の支援活動を実施した。

今年度の委嘱期間は令和4年4月1日から令和5年3月31日までであり、大学生ボラン

ティア26名に委嘱した。委嘱書交付式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため見送りとした。本年度の支援活動についても、いわゆる「三密」を避けた農業体験やスポーツ交流を中心とした活動を実施する予定である。」旨の報告があった。

#### 《 委員発言 》

「隊員になれる学生については、先輩からの紹介や口伝えによる方が多いと思うが、警察や教員等、将来、子どもの育成に携わる職業を目指している学生には、良い経験になると思うので、広く広報をして、参加の機会を広げていただきたい。」

「参加している少年に対して、参加実績に応じた修了証のようなものがあれば、励みになると思う。」

「非行少年等が家庭に戻り、家庭で再非行することがないように育てることができればいいのだが、そのようにできない家庭もある。隊員が相談できる相手となり、非行少年等と接する活動は非常に重要だと思うので、できるだけ広く人材を確保しながら、活動を継続していただきたい。」

### 【刑事部議題】

#### ○ 刑法犯認知・検挙状況について（令和4年3月末暫定値）について

警察本部から、「刑法犯総数について、認知件数、検挙件数、検挙率、検挙人員とも、全国、管区、本県の全てにおいて減少している。本県の1月から3月までの重要犯罪については、認知件数は9件で前年比5件減少、検挙件数は13件で前年比1件減少、検挙率は144.4%で前年比44.4%増加、検挙人員は9人で前年比2人減少であった。

本県の1月から3月までの重要窃盗犯については、認知件数は57件で前年比19件増加、検挙件数は34件で前年比32件減少、検挙率は59.6%で前年比114.1%減少、検挙人員は15人で前年比4人減少である。認知件数増加の理由は、倉庫荒し及び侵入窃盗が増加したためであり、検挙件数の減少理由は、忍込み、事務所荒しの検挙が減少したためである。

本県の1月から3月までの特殊詐欺については、認知件数は5件で前年比4件減少、検挙件数は2件で前年比9件減少、検挙人員は1人で前年比3人の減少である。

本県の1月から3月までの住宅対象侵入窃盗については、認知件数は19件で前年比で増減はなく、検挙件数は13件で前年比23件減少、検挙率は68.4%で前年比121.1%の減少、検挙人員は4人で前年比4人の減少であり、減少の要因は、忍込み、事務所荒しが減少したためである。

未検挙事件については、鋭意捜査を継続するとともに、事件発生時には、早期検挙に向けて、迅速的確な初動捜査をしっかりとやっていきたい。」旨の報告があった。

#### 《 委員発言 》

「3月末時点では、重要窃盗犯や侵入窃盗犯の検挙率が低く感じるが、窃盗犯1人の検挙でも余罪が多数あれば検挙率が大きく上がるので、1人でも多く検挙できるよう引き続きお願いする。」

### 【交通部議題】

#### ○ 専決事務処理状況（令和4年1月から3月）について

警察本部から、「大きな増減が認められるものについて説明する。交通企画課関係では、

安全運転管理者等に関する届出受理に関し、新規が182件と前年同期比で137件増加している。内訳は1月：13件、2月：36件、3月：133件と3月が突出して多い状況となっている。3月が多い理由は、本年4月1日施行の道交法施行規則改正により、安全運転管理者によるアルコールチェックが義務化されたことに伴い、安全運転管理者制度の周知を進めたことが背景にあると考えられる。

交通規制課関係では、道路標識・表示の設置について、1月：0件、2月：59件、3月：4件と前年同期に比べ27件減少している。前年同時期に件数が多いのは、三陸沿岸道路と宮古盛岡横断道路の開通に伴う交通規制等を90件実施したためである。

運転免許課関係では、更新時講習中の高齢者・特定任意高齢者講習について、四半期合計が7,180件と、前年同期比で1,207件増加している。増加の理由は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施されていた運転免許有効期間延長の特例措置が令和3年12月末をもって終了したことが影響したと考えられる。」旨の報告があった。

#### 《 委員発言 》

「安全運転管理者の講習や制度改正の通知等は、県警察から直接、安全運転管理者に発出しているのか。」

→本部発言

「安全運転管理者に係る事務については、一般社団法人岩手県自家用自動車協会に依頼しており、同協会において、安全運転管理者の講習や制度改正の通知等を行っている。」

#### 【その他】

警察本部から、春の全国交通安全運動の活動結果について報告があった。

#### ■個別会議

##### ○ 運転免許課

改正道路交通法の概要及び関連する規則等の改正の説明、決裁  
免許取消等処分関係に係る意見の聴取結果等の説明、決裁

##### ○ 警務課

令和4年度岩手県留置施設視察委員会委員の推薦依頼の説明、決裁

##### ○ 監察課

運転免許証更新処分に対する審査請求の受理の説明、決裁  
第38回危険業務従事者叙勲勲章伝達式における公安委員長の挨拶文の説明、決裁

##### ○ 生活安全企画課

公安委員会規則の改正の説明、決裁

##### ○ 総務課

公安委員会あて苦情の受理・処理の説明、決裁